



おがわ ともり
小川 智紀
ファシリテーター アドバイザー

認定NPO法人STスポット横浜 理事長。社会福祉士、社会教育士。1999年より芸術普及活動の企画制作に携わる。2004年、STスポット横浜の地域連携事業立ち上げに参画。2014年より現職。現在、アートの現場と学校現場をつなぐ横浜市芸術文化教育プラットフォーム事務局、民間の芸術文化活動を支援するヨコハマアートサイト事務局を行政などと協働で担当。またNPO法人アートNPOリンク理事・事務局長として、厚生労働省障害者芸術文化活動普及支援事業の連携事務局を担当。NPO法人ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク理事。NPO法人子ども文化全国フォーラム理事。「子ども白書」編集委員。学習院大学非常勤講師。



わかばやし ともこ
若林 朋子
ファシリテーター アドバイザー

プロジェクト・コーディネーター。デザイン会社勤務を経て、英国で文化政策とアートマネジメントを学ぶ。1999～2013年(公社)企業メセナ協議会勤務。プログラム・オフィサーとして企業が行う文化活動の推進と芸術支援の環境整備に従事(ネットTAMの企画・運営等)。2013年よりフリーランス。事業コーディネーター、芸術環境の整備支援、調査研究、助成プログラムの設計、研修、自治体の文化政策やNPOの運営支援等に取り組み。2016年より社会人大学院教員。社会デザインの領域で文化、アートの可能性を探る。



ひろいし たくじ
広石 拓司

エンバブリック代表取締役、ソーシャルプロジェクト・プロデューサー。東京大学大学院薬学系修士課程修了。シンクタンク、NPO法人ETICにおける社会起業家育成を経て、2008年株式会社エンバブリックを創業。「思いのある誰かが動き出せ、新しい仕事を生み出せる社会」を目指し、地域・企業・行政など多様な主体の協働による社会課題解決型事業の企画・立ち上げ・担い手育成・実行支援に多数携わる。著作に「ソーシャルプロジェクトを成功に導く12ステップ」など多数。慶應義塾大学総合政策学部、立教大学経営学部などの非常勤講師も務める。Podcast「empublicの一語一歩」も配信中。<https://empublic.jp>



なかた かずえ
中田 一会

株式会社きてん 共同代表／プランニングディレクター。1984年生まれ。武蔵野美術大学芸術文化学科卒業。IT関連出版社、(株)ロフトワーク、(公財)東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京にて勤務し、2018年に独立。文化・デザイン・福祉領域の広報コミュニケーション活動に伴走。2025年、自社の体制を変更し、事業のきてん(起点・基点・機転)をつくるバックオフィス・カンパニー(きてん)をスタート。創造活動の裏方を支え、一人ひとりが伸び伸びと働くための環境形成を目指す。2021年よりマガジンハウス(こここ)編集長も兼務。社会福祉士。



ごとう まこと
五藤 真

株式会社きてん 共同代表／会計室ディレクター／税理士。1985年生まれ。一橋大学社会学部卒業。〈猫の手税理士事務所〉所属税理士。2014年から会計フリーランスとして複数の非営利団体、芸術文化団体に従事。2018年に「表現と文化のためのバックオフィス」を掲げる〈株式会社countroom〉を設立。2022年に解散。税理士法人勤務を経て、2025年に税理士登録、再独立。個々人を支えるための組織を支えたい。鳥公園メンバー／ゲッコーバードメンバー／NPO法人国際舞台芸術交流センター理事／一般社団法人ベンチ監事。



なかむら みあ
中村 美亜

九州大学大学院芸術工学研究院教授。専門は文化政策・アートマネジメント。芸術が人や社会に変化をもたらす仕組みの解明や、それを捉える評価の方法論、ケアや社会包摂へのアプローチを実践的・学際的に研究している。全国の自治体や芸術団体に委員・アドバイザーも歴任。訳書に『芸術文化の価値とは何か』(水曜社、2022年)、編著に『文化事業の評価ハンドブック』(水曜社、2021年)、『ソーシャルアートラボ』(水曜社、2018年)、単著に『音楽をひらく』(水声社、2013年)など。日本文化政策学会、アートミーツケア学会理事。日本評価学会認定評価士。



おおたか たけし
大高 健志

MOTION GALLERY 代表。早稲田大学政治経済学部卒業後、外資系コンサルティングファーム入社。戦略コンサルタントとして、事業戦略立案・新規事業立ち上げ等のプロジェクトに従事。その後、東京藝術大学大学院に進学。制作に携わる中で、クリエイティブと資金とのより良い関係性の構築の必要性を感じ、'11年にクラウドファンディングプラットフォーム『MOTION GALLERY』設立。以降、100億円を超えるファンディングをサポート。2015年度グッドデザイン賞「グッドデザイン・ベスト100」受賞。'22年、下北沢駅南口直結のミニシアター、シモキタ・エキマエ・シネマ『K2』を開館。



みとみ ゆきえ
三富 章恵

NPO法人アーツセンターあきた。事務局長。静岡県生まれ。大学院で途上国支援を勉強した後、2006年より、独立行政法人国際交流基金に勤務し、東京およびマニラ(フィリピン)において青少年交流や芸術文化交流、海外における日本語教育の普及事業等に従事。東日本大震災で被災経験をもつ高校生・大学生や児童養護施設に暮らす高校生のリーダーシップ研修や奨学事業を行う一般財団法人教育支援グローバル基金での勤務を経て、2018年4月より現職。秋田公立美術大学の社会連携事業や秋田市文化創造館の運営など、アートやデザイン、まちづくりに関わる事業に取組んでいる。

Capacity Building Program 2026

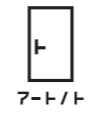
Capacity Building Program 2026



ARCHIVE
一部アーカイブ
動画あり

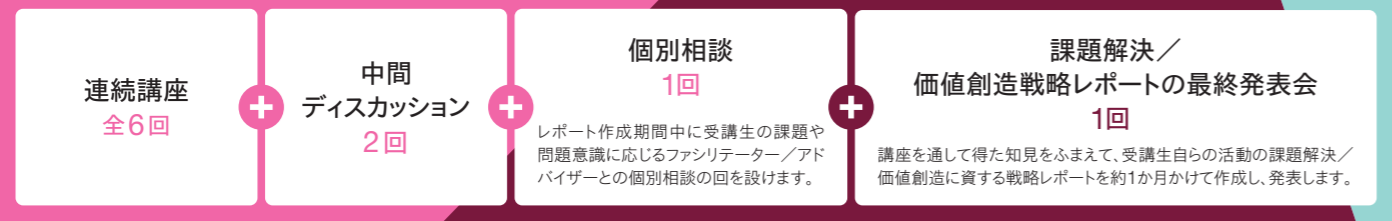
2026(令和8) 8.20_木 - 2.8_月 2027(令和9)

応募期間 | 2026年7月1日(水)から7月24日(金)12:00まで



芸術文化と社会の関係性を広い視座で捉え、受講生が取り組む課題解決や新たな価値創造、目標達成に必要な思考力やスキルを多面的に磨く連続講座です。レクチャー、ワークショップ、ディスカッション、面談などを通じて、講師、ファシリテーター／アドバイザー、受講生が対話し、分野横断的なネットワーク構築を支援しながら、受講生自らの事業や企画の実現に向けた場を創出します。

小川智紀氏、若林朋子氏をファシリテーター／アドバイザーに迎え、講座内容に応じたゲスト講師を招き、以下のプログラムを構成します ※プログラムは都合により変更になる場合がありますので予めご了承ください。



プログラム	日時	講師	テーマ・内容
オンライン説明会 ※申込不要 アーカイブ動画あり	2026.7.7[火] 18:30～20:00 オンライン配信のみ		講座説明・修了生との対話 ※当日のオンライン配信後、応募期間中にアーカイブ配信を行います ※オンライン配信及びアーカイブ配信の視聴URLは、右ページ掲載のQRコード(アートノト公式ウェブサイト)よりご確認ください ●第一部：趣旨説明 ●第二部：修了生対話
第1回 一部アーカイブ動画あり	2026.8.20[木] 17:00～20:30	広石拓司	アートと社会をつなぐ協働の実践 ●アートを「自分ごと」として捉え、協働する人を増やすためのアイデアを考える ●共感を活動力につなげるビジョン、ミッション、分かちあいたい問いをつくるための考え方を学ぶ
第2回	2026.9.10[木] 17:00～19:30	中田一会 五藤真	異なる立場の人で構成されるチームづくりの実践 ●企画の背後にある考えから、チームのあり方を知る ●ゆるやかなメンバーシップを育む、仕組みと対話の場づくりを考える
第3回	2026.9.28[月] 17:00～19:30	小川智紀 若林朋子	中間ディスカッション① ●第1・2回の講義をふまえ、思考と活動リソースを整理し、課題に向き合うためのアイデアを探る ●ディスカッションを通じて新たな視点や気づきを共有する
第4回 一部アーカイブ動画あり	2026.10.8[木] 17:00～19:30	中村美亜	芸術文化の価値を言語化する評価の実践 ●芸術文化の価値を引き出す評価の実践から学ぶ ●芸術文化の本質的な価値と社会の関係性を考える
第5回	2026.11.12[木] 17:00～19:30	小川智紀 若林朋子	中間ディスカッション② ●第3・4回の講義をふまえ、自身の課題意識や活動の方向性を深め、取り組みの可能性を広げる ●対話を通じて、多様な視点を共有する
第6回 一部アーカイブ動画あり	2026.12.1[火] 17:00～19:30	三富章恵	試行錯誤のプロセスを開き共創する実践 ●場を開き、誰もが同じ目線で利用・参加・提案できる試行錯誤のプロセスから芸術文化施設のあり方を考える ●トップダウンではなく、市民とアートと組織をつなぐ媒介者としての実践から学ぶ
第6回 一部アーカイブ動画あり	2027.1.8[金] 17:00～19:30	長島確	創造のプロセスにおけるフェアな協働を思考する実践 ●創造の現場における非対称性を考える ●協働する場における一人ひとりの違いに意識的になる
	2027.1.22[金]	小川智紀 若林朋子	個別相談 ●これまでの講義を振り返りながら、自身の活動や課題意識を再整理し、ファシリテーター／アドバイザーとの面談を通して、今後の実践に向けた具体的な道筋を考える
	2027.2.8[月] 17:00～21:00	小川智紀 若林朋子	課題解決／価値創造戦略レポートの最終発表会 ●これまでの講義を通じて構想した活動アイデアや実践の展望を発表・共有し、相互の学びを深める

公募選考による受講生を対象とした対面の連続講座が基本ですが、一部の講座はアーカイブ動画を公開します。第1、4、6回講座の一部は講座終了後、編集が完了次第「アートノト公式YouTubeチャンネル」で公開し、どなたでもご覧いただけます。

一部アーカイブ動画あり
手話通訳／日本語字幕あり

受講生募集要項

定員	16名程度	受講料	無料*	期間	2026年(令和8年)8月20日(木)～2027年(令和9年)2月8日(月)
会場	アーツカウンシル東京(東京都千代田区九段北4-1-28)				
対象	芸術文化領域(主に非営利の活動)において5年以上の活動経験のある芸術文化従事者 セルフマネージメントのアーティスト・表現者、制作者、プロデューサー、技術者、キュレーター、コーディネーター、アートマネージャー、芸術団体・アートNPOの職員、芸術文化支援団体のプログラム・オフィサー、行政・企業等の文化担当者、研究者等(分野不問) ※出席やレポート提出に対する報酬、交通費等の支給はありません。				

応募資格

本講座の趣旨やテーマを理解し、主に東京を活動拠点としている方で、次の全てに該当すること。

- ①芸術文化創造環境を主体的に向上させる意思がある。
- ②自らの活動の改善に向けて、課題解決策を立案し、具体的に取り組む意思がある。
- ③全プログラムに出席し、講師及び受講生と積極的に交流・議論する。
- ④課題解決／価値創造戦略レポートを作成し提出する。 ※1
- ⑤受講後も、芸術文化の振興に資する活動に携わる意思があり、アートノトやアーツカウンシル東京が行うアンケート調査等に協力する。
- ⑥本事業の広報活動へ協力する。 ※2

※1 再編集の上、ウェブサイトや報告書等で公開します。受講生が作成したレポート等成果物の著作権は、公益財団法人東京歴史文化財団 アーツカウンシル東京に帰属します。 ※2 受講生一覧や写真、各回の講座の様子等をアートノトやアーツカウンシル東京のウェブサイト、報告書等に掲載します。

応募方法・必要事項

アートノト公式ウェブサイトから応募フォームにアクセスいただき、以下の必要事項を入力してください。

必要事項

- 氏名、年齢、E-mailアドレス、連絡先電話番号、現職・肩書、学歴、職歴、免許・資格等、活動場所、活動形態、活動分野、職種等、顔写真 ※1
- ※1 提供いただいた個人情報については、公益財団法人東京歴史文化財団のプライバシーポリシーに則って適切に管理し、本事業の運営のためにアーツカウンシル東京及び運営事務局が利用いたします。
- ショートレポート(1200～1600字 | 字数厳守) ※2
- 今年度のテーマや自身の活動分野をふまえ、自身の活動について、以下の点に触れながら記述してください。
①目的・目標 ②実績・課題・問題意識 ③今後の展望 ④受講動機・受講意欲

※2 受講生となった方のショートレポートは、受講の際に講座内で講師及び他の受講生と共有する機会がある旨を予めご了承ください。



アートノト公式ウェブサイト
キャパシティビルディング講座2026

応募期間

2026年7月1日(水)から7月24日(金)12:00まで

選考について

アーツカウンシル東京が定める選考委員会による書類審査を行います。選考結果は、採否にかかわらず2026年8月4日(火)頃までに、E-mailにて本人に通知します。なお、選考結果についての問合せには応じません。また、アートノト及びアーツカウンシル東京公式ウェブサイトにて、受講生の一覧を掲載する予定です。予めご了承ください。

お問い合わせ先

キャパシティビルディング講座 運営事務局(特定非営利活動法人舞台芸術制作者オープンネットワーク)

電話 080-8395-6124(平日10:00～18:00) E-mail act-artsacademy@onpam.net
URL www.onpam.net